



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

効果的な英語指導教材の調査・収集

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小澤, 正則 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174114

効果的な英語指導教材の調査・収集

前シカゴ補習授業校 教頭

島根県松江市立美保関中学校 教諭 小澤 正 則

キーワード：現地校視察，ESLプログラム，教材，英語学習

1. はじめに

今回私は、アメリカ第3の都市に位置するシカゴ補習授業校に赴任する機会をいただいた。本校に通う子どもたちは、平日の月曜日から金曜日までは現地校に通いながら、土曜日には本校で学習をしている。日米両方の学校で学び、お互いの言語や文化、習慣を身に付けている点において、間違いなく日本の国際化の次代を担う子どもたちであると言える。

また、文部科学省から「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が公表されたこともあり、英語教育に対する期待は今後ますます大きくなると考えられるが、子どもたちの英語力向上の鍵のひとつとなるのは、授業で活用する教材の選定と、限られた学校での授業時数の中でいかに家庭学習を継続的に、かつ効果的に行える教材を提供できるかであるように思う。現地校訪問やESLプログラム等での調査・研究を通して、日本の子どもたちの英語学習にとって有効であろうと思われるものについて、その概略を簡単に紹介したい。

2. 現地校視察から

現地校は学校区ごとに教育方針がきちんと設定され、各校はそれにしたがって教育活動を展開している。学校区 (School District) によって所属する学校数は違うが、本校の近隣にある学校はすべて25区に所属しており、7つの小学校 (キンダーガーデンを含む) と2つの中学校がある。私が訪問させていただいた学校は、本校の子どもたちが多く通っている15区と25区に所属する学校であったが、例えば15区では、“To produce world-class learners by building a connected learning community.” の教育方針のもと、教育活動を行っていた。

(1) 現地校の図書室

私が訪問させていただいたどの学校の図書室も、その大きさや蔵書の数など、日本の学校とほとんど変わらない印象を受けたが、明らかに違うのは1冊ずつ本がレベル分け (AからZまで) され、色分けされたシールが貼られるなど、借りる子どもたちに一目でわかるように工夫してあることだった。さらに、子どもたちは、事前に一人一人の読書レベルが検査され、どの本を借りればいいのかをわかっていた。そのことはとても興味深く、大いに注目すべき点である。



訪問した学校にある図書室の入口

日本の中学生であれば、AからGぐらいまでのレベルの本ならば十分に読むことができた。予算面の問題はあるが、日本の学校でも多くの英語の書籍を購入し、子どもたちがそれぞれの英語レベルにあった図書に触れる機会を多く与えることが必要であり、子どもたちの英語学習にとっても有効であるように思う。

(2) 読書活動の推進

小学校では特に読書に力を入れていた。各クラスが趣向を凝らして、教室の扉一面に本にちなんだ飾りつけをしたり、毎月の目標読書時間が設定され、子どもたちにReading Logsと呼ばれる記録用紙に毎日記録をつけさせ

ている学校もあった。この学校では、見事目標を達成した子どもたちの名前を校内に掲示したり、近所のお店とタイアップして無料のクーポン券を配付するなど、子どもたちの読書への興味や関心を高めるよう様々な工夫がされていた。

また、Scholastic (<http://www.scholastic.com/home/>) を通じて、毎月子どもたちから書籍の注文を取っているところもあった。クラスの子どもたちが購入した金額に応じてそのクラスには無料の図書が届けられる仕組みとなっており、学級文庫の充実や読書推進、授業で活用できる書籍を増やす工夫がなされていた。Scholasticのホームページでは、学年ごとに相応の書籍が分類され、それらの説明も掲載されているので、英語の授業で書籍を活用しようとする場合に、書籍選びに有効活用できるように思う。

(3) 電子機器の積極的な活用

パソコンルームとは別に、図書室や教室、共有スペースなどに何台ものパソコンが設置してあり、授業等で積極的に活用されていた。中でも興味深かったのは、授業中の課題を早く終わらせた児童生徒に、インターネットの学習サイトやアプリケーションソフトで深化補充学習をさせていた点である。教師が子ども一人一人にIDとパスワードを割り当て、家庭でも引き続き学習できるようにしているところもあり、とても参考になった。

また、近隣の学校区では毎年iPadが計画的に購入されていた。この学校区全体で約2000台のiPadを所有しているが、来年度はその数は2倍になるとのことだった。私が訪問した学校でも1校当たり400台近くのiPadを所有しており、一人1台ずつiPadを使っている授業が行われていたり、児童生徒の家庭学習用に持ち帰らせている学校もあった。当然、iPadの管理はしっかりとされており、写真のように40台ずつくらいをまとめて鍵のかかる移動式ロッカーに保管されていたり、どの児童生徒がどこでiPadを使用しているのかがすぐにわかるようになっていた。また、学校区によってはApp Catalogueを用意し、そこからしかアプリケーションを選ばないように工夫されていた。

このアプリケーションソフトやインターネットの各種ホームページにおいても、日本の英語学習で活用できるであろうと思われるものが数多くあったので、その中からいくつか簡単に紹介したい。

① Tumble Book Library (http://asp.tumblebooks.com/library/asp/home_tumblebooks.asp)

レベル分けされたたくさんの本が紹介してあり、子どもたちは自分の興味やレベルに合わせて読むことができる。書籍のように読み進めることもできるが、読み聞かせの機能がついているので、ネイティブスピーカーの発音を聞きながら物語を楽しむこともできる。

② Raz-Kids (<http://www.learninga-z.com/index.html>)

たくさん書籍がA (aa) からZまで27のレベルに分類されており、読み聞かせの機能の他、自分で録音し、後でそれを聞いて確認することができる。さらに、物語の内容についての設問が設けられているので、自分の理解度をその場ですぐに確認することもできるようになっている。また、個人はもちろん、クラス単位で申し込むことも可能で、教師や保護者は子どもたちの学習の進捗等をいつでも確認することができるのはとても便利だと感じた。

③ Reading A-Z (<http://www.learninga-z.com/index.html>)

②のRaz-Kidsと同じサイト内にあり、同様にA (aa) からZまで27のレベルに分類された書籍から選ぶことができる。検索機能がついていて関係の書籍を簡単に探せたり、書籍をプリントアウトして配付することもできるので、これを授業や家庭学習に活用している学校もあった。



iPadは40台くらい入る収納ケースで管理されている

④ Stack the States

iPadのアプリケーションソフトのひとつで、クイズやゲームを通して、アメリカの地理を学んでいくことができる。現地の小学校で使われていたところもあり、使用されている英語は日本で英語学習を行っている高校生レベルではないかと思われるが、中学生でも楽しくアメリカ各州の地形や州都等について学びながら、英語学習ができるソフトであると思う。

⑤ Storia

たくさんの電子書籍が揃っていて、各自の英語レベルや興味等に合わせて選ぶことができる。書店で購入するよりも早く簡単に手に入れることができ、ネイティブスピーカーの読み上げ機能や録音できる機能がついているものもあり、授業や家庭学習で活用できる。保護者に紹介するだけでも家庭での英語学習に活用してもらえるのではないかと思う。

3. ESLプログラムから

アメリカはこれまでに約5,000万人の移民を受け入れ、今も世界各地から毎年何十万人規模で移民を受け入れている、世界最大の移民大国である。そのため、アメリカ人と言っても文化や習慣は様々であり、話されている言語も英語の他、スペイン語、中国語、ロシア語、ポーランド語などかなり多岐に渡っており、その定義はかなり難しい。一般的に使われている英語を話せない人の数も多く、このような人たちのために各地で無料のESL (English as a second language) のプログラムが数多く用意されており、それぞれの英語レベルや都合のいい時間に合わせて参加することができるようになっている。

今回いくつかのESLプログラムに参加し、コーディネーターの方から直接お話を伺うなどしながら調査を行うことができたので、英語指導について参考になるであろう事柄について簡単に紹介したい。

(1) 実際のプログラムから

ESLのプログラムに申込を行うと、はじめに2, 3種類の英語力を診断するテストを受けなければならない。テストは30分程度のもので、この結果によって、自分にはどのプログラムが合っているのかを伝えられる。私のいたところでは、英語レベルによって次のように分けられていた。

① English as a second language

日本の中学1年生が学習するような簡単な英単語や熟語、文法事項から教わることができる。一人の教師が15～20人の受講者を担当する。近隣の3会場で行われており、会場によって午前と午後で時間帯が異なるが、どの会場とも1回の授業時間は3時間で週2～3回開催されている。

② Read to Learn Adult Literacy Program

毎回300～350人程度の受講者が参加している。参加者の英語レベルの幅が広く、ある程度、英語の読み書きができるレベルである。日本で英語教育を受けた人であればほとんどの人がここに入る。近隣の13会場で週1回行われており、一人のチューターに対して1～2ずつの生徒が英語を学んでいく。授業時間は会場によって午前か午後に分かれるが、どこも1回2時間半である。

③ Power Reading

英語で書かれた本をある程度読みこなせるくらいの英語力レベル。参加者の多くは仕事等で日常的に英語を使っており、英語力はある程度高い。週2回開催されていて、授業時間は1回3時間である。一人の教師が20名程度の参加者を受け持ち、読み物の内容理解を中心に授業が進められる。

これらの他にもチューターと一対一で英語運用能力の向上を目指すOne to one conversation classやコンピューターを使ってリスニングの練習を行ったり、家族と一緒に参加できるプログラムなど多数用意されていた。

上記の②, ③のプログラムには、それぞれ1年半くらいずつ参加することができ、英語指導についてとても参考になった。受講者の英語レベルを定期的に診断、分析し、その結果を常に指導に役立てていたことや、英語力

を診断する検査もレベルごとに数種類の問題が用意されているなど英語レベルを診断するシステムがはっきりと確立されていた。

(2) 使用教材から

① Easy English News

アメリカへの移民や訪問者で英語を学習しようとする人のために毎月1回発刊されている新聞である。話題となっているニュースはもちろん、ハロウィンやクリスマスなど昔からの慣習についての説明が写真やイラスト付きでとてもわかりやすい英語で書かれており、日本の中学3年生くらいの英語力のレベルであれば十分に読むことができる。日本からの定期購読も可能で、1部5ドルとなっているが、まとめて購読すると少し割安になり1部2～3ドル程度で購読できる。

② News for You (<http://newsforyouonline.com/index.asp>)

比較的簡単な英語で書かれたニュース等を読むことができる。ネイティブの発音で読み上げてくれたり、一文ずつ区切って聞き返すこともできる。また、少し難しい単語や熟語には注釈がつけられているなど、理解しやすいように工夫されている。教師が登録することで、生徒は共通のパスワードを使ってすべての記事を読むことができる点は便利である。

4. その他の教材から

(1) TIME for kids (<http://www.timeforkids.com/>)

Timeの子ども向け版で、レターサイズ裏表2枚に、現在話題のトピックが写真やイラストとともに分かりやすく簡潔にまとめてある。現地の学校でもクラスの児童分をまとめて定期購読し、授業で活用しているところもある。日本の中高生レベルの英語力であれば十分に楽しく読むことができる。

また、ホームページもかなり充実していて、無料で読めるニュースや特集の記事もたくさんあるので、定期購読をしなくとも、英語の授業等で十分に活用することができるように思う。

(2) We read (<http://www.weread.org/>)

子ども向けの本が多数あり、自分のレベルに合わせて読むことができるので、子どもたちの家庭学習として活用できる。もちろん子どもたちの実態にあわせて授業で取り扱うことで、楽しく英語を学ばせることができる。

(3) 各学校や学校区のホームページ

各学校のホームページは基本的にそれぞれの学校区 (school district) が管理しているが、内容についてはそれぞれの学校が趣向を凝らしていて、授業の様子の写真はもちろん動画などを積極的に発信している。各学校が出している文書なども閲覧することもできるので、日本にいながらアメリカの学校生活についていろいろな情報を得ることができる。例えば、保護者に配付されている School Handbook には、学校の時程やきまりなどが細かく書かれているので、教材として扱ってもおもしろい。

5. おわりに

現地校の授業では、パソコンやiPad、実物投影機などの視聴覚機器が積極的に使われているだけでなく、子どもたちにもiPadを配付し、授業や家庭学習等で活用したり、インターネットを通じての学習を奨励したりするなど、基礎基本の定着や深化補充を図るために多くの手立てが講じられていた。

また、ESLプログラムでの調査では、移民大国ならではの英語習得についての手順がしっかりと確立されており、一人一人の英語力に合わせた指導がなされていた。ESLで学ぶ人たちのための新聞が発行されるなど、各図書館にはESL関係の書籍も豊富で、ハード面、ソフト面の両面から手厚いサポートがなされていた。

今回の現地校やESLプログラムでの調査を通して、英語指導を行う上でとても参考になることが多くあった。特に、今後の英語指導において活用できる教材を多く収集できたことは、子どもたちの英語学習にとって有益となるであろうと確信している。引き続き、アメリカでの指導方法や使用されている教材等について調査を続け、子どもたちへの英語指導に役立てていきたい。